

町内で活躍する読書ボランティアの想い

昔話を聞く楽しさを届けたい。

お話を語るストーリーテリングを町内外の皆さんに行っているボランティア「三芳町おはなしサークル」が「かにかにこそこそ」の想いに迫ります。

本もお話しも大好き!



10月20日にあずさ保育園にかにかにこそその3人が訪問。語りを聞いた子どもたちと3人のメンバーと一緒に。

子ども

子どもたちの元気な声が響くあずさ保育園内。「あっ!かにかにこそのおばさんが来た!」と絶叫にも似た大きな声で言う子どもたちの目線の先にいたのはおはなしサークル「かにかにこそこそ」の皆さん。

平成6年に図書館主催で開催した「お話の講習会」の受講生を中心に、『今の子どもたちに昔話を聞く楽しさを味わって欲しい』という願いを込めて同年4月に発足した同サークル。月一回の定例会で語りに向く昔話のテキスト探しや、覚えて語る練習をして保育園や小学校、図書館での子どもたちへの語り、町内の古民家で夜語りをするなど大人向けの語りも行っています。

ストーリーテリング

語りは「ストーリーテリング」とも言われ、物語を語り手が覚

に、手の中に隠したドングリを当てるゲームをして、緊張をほぐします。子どもたちとの距離が縮まったところで、いよいよ語りが始まります。

語りに聞き入る子どもたち。一人ひとりが想像力を高めて、その世界に入り込みます。楽しい内容だと笑いが起こり、シリアスな話になると、じっと語り手を見つめます。

子どもたちのおかげで成長できる

「この場面で『こんな反応があるんだ』など新しい発見が必ずあるんです」と話すメンバーの一人、渡部さん。「大人と違って、話し方や話がつまらないと



かにかにこそその皆さん。この日は次のイベントに向けてリハーサルを入念に行いました。

語りを聞く楽しさ

「早く遊ぼう!」と言う子どもたち。まずスキンシップをとるために手遊びをします。さら

ソップを向かれてしまいます(笑)。子どもは正直です。彼らを引き込む話を選ぶ力を付けな

るには、作品を読み込み練習、練習。おかげで自分が成長できるんです。

子たちから学んだことを、大人向けの語りでも活かすことができるといい、その質の高い語りは、「民家で夜語り」に古民家からあふれてしまうほどの来場者が毎回来ることにあらわれています。

語りを終えて教室を出る、かにかにこそその皆さんを子どもたちが囲いハイタッチをする姿は「よみ愛・読書のまち」そのものでした。



1 10月16日に図書館で開催した「えほんとおはなしのへや」。多くの親子が参加。絵本の持ち方にも気を配る。2 あずさ園での活動の様子。手遊びやドングリを手に隠して誰が持っているかを当てるゲームで大盛り上がり。語りになると真剣な表情を見せる子どもたちから学ぶことがたくさんあるといえます。

言葉と声を届け 子どもの読書環境を豊かに

三芳町でお話をはじめて20年。子どもたちに育ててもらいました。純粋な子どもたちに、いい加減な本や語りを与えることはできません。質の良い「言葉と声」を届け、三芳町の子どもたちに、読書の楽しみ、喜びを伝える環境を作りたいです。毎月第3水曜日に定例会を開いているので、一度遊びにきてください。



かにかにこそその会長 池山 房子さん
☎ 中央図書館 ☎ 049-258-6464

三芳町の子どもの読書ボランティア ☎ 049-258-6464

ボランティア名	活動行事
ぐりぐらボランティア (個人登録)	ぐりぐらタイム/えほんワールド/三芳太陽の家おはなし訪問/ブックスタート/ブックスタートプラス/おひざでだっこ えほんとわらべうたの会
スイミーおはなし会	スイミーおはなし会/わらべうたの会
みよし読書愛好会	中高年の読書会/ピリオパバトル方式
館内展示ボランティア	ケース内に手製の人形を展示
おはなしサークル にかにかにこそ	図書館おはなし会/わらべうたの会/夜語り/学校おはなし訪問/その他依頼に応じて出前
子どもの読書環境 サポート隊『ほんのむし』	勉強会を主催。年1回各団体合同で乳幼児対象のおはなし会、ボランティア合同研修会を実施



えほんワールドで昔懐かしい紙芝居を子どもたちに話す、ぐりぐらボランティアの榎森さん。

が支えられています。「私も参加したい!」という人は、ぜひ一度図書館にお問い合わせください。

限られた職員数の中で、多くの事業を行うにはボランティアの存在はなくてはなりません。子どもたちのことを大切に思う地域のボランティアの愛情によって、三芳町の子どもたちの「よみ愛・読書」

子どもたちの笑顔が 私たちの幸せ!

三芳町で活躍する 読書ボランティア

子どもたちに読書の喜びを伝えるため、ボランティアが読み聞かせや紙芝居、ストーリーテリングなどを行っているのをご存知ですか。

わが子に上手な読み聞かせを届けたいという思いがきっかけで参加し、やがて「ほかの子どもにも本の素晴らしさを伝え、喜ぶ笑顔の子どもたちを見たい」という気持ちに変わり、育児を終えたあとも、継続してボランティア活動をしています。



ぐりぐらボランティアの皆さんへ